

♪ 2022年度 **poco a poco** ♪

Nr. 19

2022年 12月14日(水)

文責:プファイル・辰巳

ミニコンサート

「ぽこあぽこ号外」にてお知らせしました通り、明日から音楽の授業時間内に2学期ミニコンサートを各学年で開催する予定です。みなさんの体調が回復していることを祈ります。健康第一ですから、無理のないようにしてくださいね。今年度は、3学期にももう一度出演のチャンスがあります。



音楽こぼれ話 <その時、作曲家は・・・ ⑫

「清らに星澄む今宵 (O Holy Night)」 >

有名なクリスマス・キャロル「清らに星澄む今宵」という曲をご存知でしょうか。「さやかに星はきらめき」と呼ばれるときもあります。英語の題名は「O Holy Night」で、こちらの方がよく知られているかもしれません。元々はフランス語の歌詞に作曲されたもので、原題を「Cantique de Noël」といいます。

クリスマスに間近に控えたこの時期、ドイツでもよく耳にする美しい旋律です。ちなみにクリスマス・キャロルとは宗教的な意味合いが濃く、一般的なクリスマス・ソング(「ジングルベル」や「赤鼻のトナカイ」など)とは区別される場合もあります。

「O Holy Night」というクリスマス・キャロルを作曲したのは、あまりなじみのない作曲家かもしれませんが、Adolphe Adam というフランス人作曲家です。アダムは1803年にパリに生まれました。パリ音楽院で作曲を学んだ後、オペラやバレエなどの総合芸術を愛し、たくさんの作品を作曲したそうです。今日でも有名な曲にバレエ「ジゼル」があります。アダムはオペラを愛するあ

まり、1847年には、パリで3つ目の歌劇場となるテアトル・ナショナル座を自ら開設しました。ところが翌年の1848年には、ヨーロッパ各地で革命が起こり、ウィーン体制が崩壊しました。この影響を受けて劇場は閉鎖となり、アダムは莫大な借金を抱えることとなります。

「O Holy Night」が作曲されたのは、1847年のことだったといえますから、アダムはちょうど劇場を開業し意気揚々としていた頃ではなかったかと想像されます。この曲は8分の12拍子で作曲されています。流れるような8分音符の伴奏にのせて、キリスト降誕の様子が穏やかで美しい旋律で紡ぎだされます。

Youtubeなどで聴いてみたい方には、Kings College Choirなどの少年合唱団の澄み切った歌声などいかがでしょうか。またはThe Kings SingersとThe Tabernacle Choirが共演する大合唱もお勧めです。

アダムは1849年からは、もっぱらパリ音楽院作曲科で教鞭をとることに専念していましたが、1856年に脳卒中で倒れ帰らぬ人となりました。パリのモンマルトル墓地に葬られているとのこと。

蛇足ながら、現在パリのシャイヨー宮内にあるテアトル・ナショナル座は、20世紀に入ってから開設された別の劇場だそうです。

ちょっとだけ 演奏会情報

アルテオーパーのランチタイム・コンサート

アルテオーパーで、平日のランチタイムに、音楽と軽食を楽しめるコンサートがあるそうです。30分ほどモーツァルト・ホールで音楽を楽しんだ後、2階ロビーで軽食を楽しめるそうです。そして26ユーロのチケット代金にこの軽食代も含まれているとのこと。期日は下記の通り。(チケット TEL 069 13 40 400)

2023年 1月19日(木) 13時から AMARCORD(男声5重唱)の演奏

2023年 3月 9日(木) 13時から NOVUS STRING QUARTETT
(弦楽4重奏)の演奏

2023年 5月10日(木) 13時から OMER KLEIN(ピアノ)と
ARIS QUARTETT(弦楽4重奏)の演奏